

## クルマの安全に点検・整備が不可欠な理由

道路運送車両法において、自動車の保守管理責任はユーザー自身にあること（自己管理責任）が定められており、自動車ユーザーには、日常点検と定期点検が義務付けられています。ユーザーは日常点検を含めた定期的な点検・整備を怠ることなく、自動車の安全の確保に努めなければならないのです。

### 自家用乗用車の使用者が保守管理しなければならない点検の種類

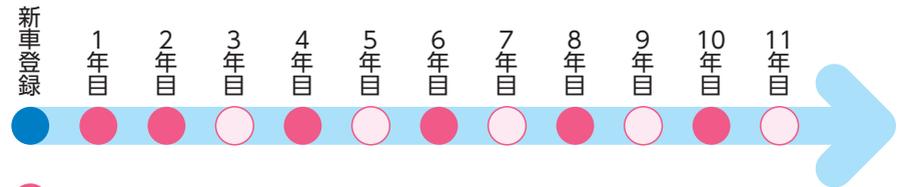
#### 日常点検

走行距離、運行時の状態から判断した適切な時期に目視などによりブレーキ液の量・エンジンオイルの量をはじめとする本書掲載の15項目の点検を行います。

#### 定期点検

定期点検は、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う点検です。自家用乗用車の定期点検には、1年点検（車検と車検の間の年）と2年点検（車検時）があります。

#### 定期点検実施スケジュール(自家用乗用車)



- ..... 1年定期点検  
安全確保、公害防止及び故障予防の観点から、車検と車検の間の年にクルマの構造、装置が正常に機能しているかを国が定める基準に沿って点検し、必要に応じて部品交換・修理・調整等を行います。
- ..... 車検(継続検査)+2年定期点検  
車検とは、一般的に自動車検査証の有効期限が満了した後も引き続きその自動車を使用するときに受ける検査(継続検査)を指します。また、車検時に行う2年定期点検では、1年定期点検項目に加えて、国が定める基準に沿ってさらに多くの点検項目を実施します。

定期点検の実施の有無や次回の定期点検の実施時期は、車両前面ガラスのステッカーで確認できます。

→詳しくはP22参照

## CONTENTS

### 第1章 点検・整備の必要性

- クルマの安全に点検・整備が不可欠な理由..... 1
- 点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例..... 2

### 第2章 日常点検を実施しよう!

- 日常点検のチェック箇所..... 4
- ハイブリッド車・EV車の触れてはいけない部品例 ..... 13
- 日常点検チェックシート..... 14

### 第3章 定期点検を実施しよう!

- 故障予防のために定期的な点検・整備(定期点検)のすすめ ... 16
- 定期点検とは..... 18
- 最近のクルマの点検・整備事情..... 20
- 定期点検 Q&A ..... 22
- 2年定期点検用点検整備記録簿(例) ..... 24

### 第4章 クルマのトラブル

- メーターパネル(計器)からのシグナル(代表例)..... 26
- トラブル対処法..... 28

### 第5章 ドライバー情報

- 知っておきたいクルマの安全対策..... 36
- 災害発生時の対処法..... 37
- ドライバーが地球のためにできること..... 38
- 違法行為となるクルマの不正改造..... 39
- 全国自動車整備相談所一覧..... 40



※本ハンドブックは、基本的に自家用乗用車を対象として、編集したものです。また、掲載している内容は、令和元年7月現在のものとなります。

## 点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例

クルマの部品は、気付かないうちに摩耗・劣化しています。そうした状態で使用し続けると、重度の故障による多額の出費、さらには交通事故といったリスクを背負うこととなります。“さまざまなリスクを回避する有効な手段”として、日頃から点検・整備を心がけましょう。



点検・整備をしっかりと行うことで、さまざまなリスクを回避することができるのです。

### 搭乗者の命に係わるリスク

#### 燃料漏れによる車両火災

燃料ホース等に亀裂が生じることで燃料漏れを引き起こすことがあります。漏れた燃料がエンジンなどの熱源により着火し車両火災に至ってしまった場合、運転者だけでなく同乗者等も危険にさらすこととなります。



亀裂から燃料漏れをおこした燃料ホース

### 他人の命に係わるリスク

#### 装置破損による車輪操作不能

車輪と車体をつなぐ装置が破損することで、ハンドル操作および自走ができなくなるケースがあります。その場合、歩行者や他の交通なども危険にさらすこととなります。



前輪と車体をつなぐ破損した装置

### 多大な出費のリスク

#### オーバーヒートによる路上故障

冷却不良を起こしエンジンがオーバーヒートしてしまった場合、多大な出費を要する可能性はもちろん、大事な予定に支障を及ぼすだけではなく、交通渋滞の原因になり、他人にも迷惑をかけることとなります。



冷却不良によるオーバーヒート

### 他の車を巻き込むリスク

#### 整備不良が原因となる交通事故

ブレーキランプ切れが原因で後続車と追突事故を起こしてしまうなど、適切な点検整備を怠ると単独事故だけではなく他の車を巻き込んだ事故を発生させてしまう可能性があります。



電球が切れたため点灯しないブレーキランプ

### ユーザー本人が手軽にできる点検・整備

クルマの点検というと整備工場に依頼するものを想像しますが、ユーザー本人が手軽に行える点検もあります。手順さえ覚えれば誰でも簡単に実施でき、その上大きな効果が得られます。



第2章へ  
P4～15

日常点検を実施しよう! .....

### 専門的な知識・技術が必要な点検・整備

整備工場に依頼する点検・整備というと車検だけと思いがちの方が多いようです。でも、車検と車検の間にも、定期点検と呼ばれる点検・整備があるのです。人間の健康診断は年1回が一般的ですが、クルマについても年に1回(自家用乗用車)の健康診断が必要です。



第3章へ  
P16～25

定期点検を実施しよう! .....

## 日常点検のチェック箇所

日常点検は、走行距離や運転時の状態などから判断して実施するもので、ユーザー本人が比較的容易に行うことができる点検内容なので、確実に実施しましょう。目安としては1か月に一度、長距離走行前や洗車時などに行うのが一般的ですが、日頃のちょっとした機会に注意深くクルマを観察することで、不具合箇所を早期に発見することができるでしょう。

### 聞

セル・モーター音、アイドリング音

クルマの異常はエンジン始動時のセル・モーター音やアイドリング音でも判断できます。特にセル・モーター音はバッテリー不具合を知るバロメーター。「いつもと違う?」と感じたら要注意です。



## 聞く、見る、触れる。

日常の心構えが不具合早期発見のポイント

### 見

タイヤ、ランプ類

駐車した際に、ショーウィンドウのガラスへの映り込みなどを利用して自分のクルマのランプ類をチェックすることもできます。

### 触

アクセル、ブレーキ

アクセルやブレーキの踏み心地でクルマの異常を判断できます。買い物で街中を走るときなど、普段から正常時の操作感覚を意識する習慣をつけましょう。

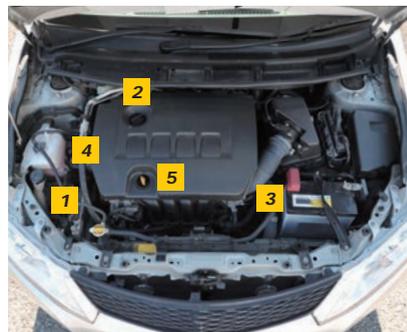


1回の点検は5～10分程度。効率よく行えば、決して面倒ではないんだよ。なお1～15は日常点検の点検手順を示しています。



日常点検の流れ ※各装置等の配置は、車両により異なります。

### STEP 1: エンジンルームをのぞいてここを点検



- |   |               |     |
|---|---------------|-----|
| 1 | ウインド・ウォッシャ液の量 | p 6 |
| 2 | ブレーキ液の量       | p 6 |
| 3 | バッテリー液の量      | p 7 |
| 4 | 冷却水の量         | p 7 |
| 5 | エンジンオイルの量     | p 8 |

### STEP 2: クルマのまわりを回ってここを点検



- |   |                        |      |
|---|------------------------|------|
| 6 | タイヤの空気圧                | p 9  |
| 7 | タイヤの亀裂、損傷および異常な摩耗      | p 9  |
| 8 | タイヤの溝の深さ               | p 10 |
| 9 | ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷 | p 10 |

### STEP 3: 運転席に座ってここを点検



- |    |                         |      |
|----|-------------------------|------|
| 10 | ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き | p 11 |
| 11 | パーキング・ブレーキ・レバーの引きしろ     | p 11 |
| 12 | ウインド・ウォッシャの噴射状態         | p 11 |
| 13 | ワイパの拭き取りの状態             | p 12 |
| 14 | エンジンのかかり具合および異音         | p 12 |
| 15 | エンジンの低速および加速の状態         | p 13 |

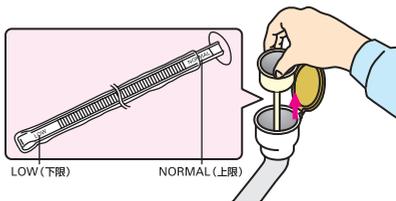
# 日常点検のチェック箇所

## STEP 1: エンジンルームをのぞいてここを点検

### 1 ウインド・ウォッシュ液の量



ウインド・ウォッシュ液の量が十分あるかを点検します。不足時は専用液を補充しましょう。



ウインド・ウォッシュ液は冬季の凍結を防止するため専用液を使用する必要がありますので、行きつけの整備工場に相談しましょう。

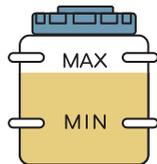
**トラブル例** ●いざというときにフロントガラスの汚れを落とせず、前が見えなくなる

※ウォッシュ液が、カラの状態でもウォッシュ・スイッチを入れると、モーターが故障することがあります。

### 2 ブレーキ液の量



ブレーキ・リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲 (MAXとMINの間) にあるかを点検します。



ブレーキ・リザーバ・タンク

定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場へ交換しましょう。

→交換の必要性はP17参照

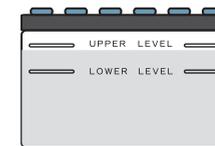
**トラブル例** ●ブレーキ液の量が減ると、最悪の場合ブレーキが効かなくなり、追突事故の原因になる

※ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統からの液漏れやブレーキパッド等の摩耗が考えられます。整備工場へ依頼して原因をつきとめましょう。

### 3 バッテリー液の量



バッテリーの液量が規定の範囲 (UPPERとLOWERの間) にあるかを車両を揺らすなどして点検します。



バッテリーには寿命があるので、定期点検の機会等を利用して早めに交換しましょう。

**トラブル例** ●バッテリーあがり (エンジン始動不能) ●バッテリーの破裂

※メンテナンスフリーバッテリー (液の補充及び点検ができないタイプ) も、同様に寿命があります。

### 4 冷却水の量



ラジエータ・リザーバ・タンク内の冷却水の量が規定の範囲 (FULLとLOWの間) にあるかを点検します。



ラジエータ・リザーバ・タンク

定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場へ交換しましょう。

→交換の必要性はP16参照

**トラブル例** ●冷却水の量が減るとエンジンがオーバーヒートを起こし、最悪の場合エンジン交換が必要になる

※冷却水の量が著しく減少しているときは、ラジエータ、ラジエータ・ホースなどから冷却水が漏れているおそれがあります。



STEP1のエンジンルームの点検は、エンジンが熱をもっている恐れがあるので、走行前もしくは走行後しばらく経ってから行うようにしましょう。

## 日常点検のチェック箇所

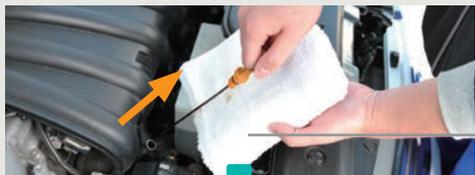
### STEP 1: エンジンルームをのぞいてここを点検

#### 5 エンジン・オイルの量

エンジン・オイルの量がオイル・レベル・ゲージにより示された範囲内にあるかを点検します。

エンジン・オイルとオイル・フィルタは、定期的な交換の必要性がありますので、定期点検等の際に整備工場で交換しましょう。

→交換の必要性はP16参照



① 平らな場所でエンジンを止めた状態で、オイル・レベル・ゲージを抜き取ります。



② オイル・レベル・ゲージに付着しているオイルを拭き取ります。



③ オイル・レベル・ゲージをいっぱい差し込みます。



④ もう一度抜いてオイルの量がオイル・レベル・ゲージの規定の範囲内(HとLの間)にあるかを確認します。



⑤ オイル・レベル・ゲージを元の位置に差し込みます。

**トラブル例** ●エンジン・オイルの量が足りない場合、エンジン内部の破損を引き起こす

※オートマチック・トランスミッションのオイル・レベル・ゲージと間違えないようにしましょう。  
 ※エンジンルームにタオル等の可燃物を置き忘れないよう注意しましょう。エンジンの熱でタオルなどが発火して車両火災が起こる場合があります。

STEP2ではタイヤやランプ類の点検を行います。ランプ類の点検は信号待ち等での前の車や、駐車した際のショーウィンドウへの映り込み等を利用してチェックすることもできます。



### STEP 2: クルマのまわりを回ってここを点検

#### 6 タイヤの空気圧



タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検します。なお、タイヤゲージがあれば、より正確に点検できます。

【表示例】

| タイヤサイズ        | 前輪        | 後輪        |
|---------------|-----------|-----------|
| 185/65R15 65H | 250 (2.5) | 230 (2.3) |
| 応用タイヤ         | 420 (4.2) | 420 (4.2) |
| T125/70D15    | (4.2)     | (4.2)     |

応用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行して下さい。使用法は、取説の印刷物をご確認ください。

6 J.SDA

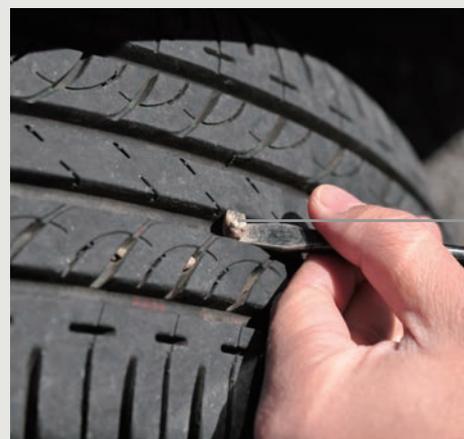
タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの端やセンターピラーに貼付されているラベルに表示されています。

タイヤゲージが無い場合や自分でチェックすることが難しい場合は、行きつけの整備工場に気軽にチェックをお願いします。

**トラブル例** ●空気圧不足による燃費悪化 ●空気圧が不適正な場合、走行安定性が悪化 ●空気圧不足により、ハンドル操作が重くなる

※スペア・タイヤの空気圧も点検しましょう。

#### 7 タイヤの亀裂、損傷および異状な摩耗



① 著しい亀裂や損傷がないかをタイヤの全周にわたり点検します。また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

② タイヤの接地面の片側だけや一部だけが異状に摩耗していないかを点検します。

クルマの下廻りから見ないと全周にわたってチェックすることは困難なので、整備工場定期点検を実施して確実にチェックしてもらいましょう。

**トラブル例** ●パンク、バースト(破裂) ●スリップ ●制動距離が長くなる

※亀裂、損傷や異状摩耗したタイヤでの走行はとて危険です。早急に取り換える必要があります。

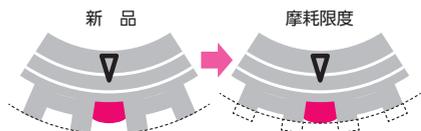
# 日常点検のチェック箇所

## STEP 2: クルマのまわりを回ってここを点検

### 8 タイヤの溝の深さ



溝の深さが十分あるかをスリップ・サインなどにより点検します。なお、デプスゲージを使用すれば残り溝の深さがわかります。



スリップ・サインは、タイヤの溝の深さが1.6mm以下になると現れます。

タイヤは負荷がかかる部分(一番使用している重要な部分)が最も摩耗するので、部分的に溝が減っている場合でも交換の必要性があります。

トラブル例 ●パンク、バースト(破裂) ●スリップ ●制動距離が長くなる

※スタッドレスタイヤは溝の深さが50%まで摩耗すると積雪路・凍結路での性能が低下するので、タイヤの溝の深さが50%に達するとプラットホーム(冬用タイヤとしての使用限度を示すサイン)が現れます。

### 9 ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷



①エンジン・スイッチをONにして、ヘッドランプ、テール・ランプ、ライセンス・ランプ、ブレーキ・ランプ、クリアランス・ランプ、バックアップ・ランプなどの点灯具合やウインカ・ランプの点灯具合及び点滅速度が不良でないかを点検します。フォグランプ付車はフォグランプの点灯具合も点検しましょう。

②レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

ランプ類は他の交通へ合図を送る重要な装置なので、必要な場合は整備工場でチェックしてもらいましょう。

トラブル例 ●夜間、悪天候時及びトンネル走行時等に前方視界が確保できない ●他車への意思表示ができない

※ウインカ・ランプが球切れを起こすとメータ内のインジケータ・ランプ点滅速度に変化が生じます。

STEP3では運転席での操作に対するクルマの反応を確認します。新車時や定期点検直後との違いを意識しながら点検しましょう。

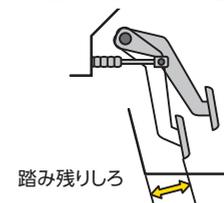


## STEP 3: 運転席に座ってここを点検

### 10 ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き



ブレーキ・ペダルをいっぱい踏み込んだとき、床板とのすき間(踏み残りしろ)や踏みごたえが適当であるかを点検します。また、ブレーキの効きが適当であるかを点検します。



踏み残りしろの基準値はクルマの取扱説明書等で確認しましょう。

徐々に進行する変化には気づきにくいので、整備工場で定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックや調整をしてもらいましょう。

トラブル例 ●ブレーキの効が悪い場合、追突事故の危険性が高い

※床板とのすき間が少なくなっているときや踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れや空気の混入が考えられます。整備事業場へ依頼して原因をつきとめましょう。

### 11 パーキング・ブレーキ・レバー(ペダル)の引きしろ(踏みしろ)



パーキング・ブレーキ・レバーをいっぱい引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。また、パーキング・ブレーキがペダル式のクルマは、ペダルの踏みしろで点検します。



引きしろ(踏みしろ)の基準値はクルマの取扱説明書等で確認しましょう。

徐々に進行する変化は見逃しがちなので、整備工場で定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックや調整をもらいましょう。

トラブル例 ●パーキング・ブレーキの効が悪くなる ●パーキング・ブレーキの引きずり

# 日常点検のチェック箇所

## STEP 3: 運転席に座ってここを点検

### 12 ウインド・ウォッシャの噴射状態



ウインド・ウォッシャ液の噴射の向きおよび高さが適当かを点検します。

噴射の向きや高さが適当でなく、自分で調整等できない場合は、整備工場に依頼しましょう。

トラブル例 ●フロントガラスの汚れを落とせない ●飛散による他の交通等への悪影響

### 13 ワイパの拭き取りの状態



- 1 ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。
- 2 ウォッシャ液がきれいに拭き取れるかを点検します。

拭き取り状態が悪く、ワイパのゴム等を自分で交換できない場合は、整備工場に依頼しましょう。

トラブル例 ●フロントガラスの雨や汚れを拭き取れない

※ワイパのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させましょう。

### 14 エンジンのかかり具合および異音



エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時およびアイドル状態、異音がないかを点検します。

徐々に進行する変化には気付にくいので、整備工場定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックしてもらいましょう。

トラブル例 ●エンジンがかからない ●エンジンの力不足 ●エンジン内部不具合

ハイブリッド車やEV車(電気自動車)は、従来のクルマと構造が大きく異なるので、エンジンルーム内等の点検は特に慎重に行ってください。



### 15 エンジンの低速および加速の状態



- 1 エンジンが温まった状態で、アイドル時の回転がスムーズに続くかを点検します。
- 2 アクセル・ペダルを徐々に踏み込んだとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、また、エンスト、ノッキングなどを起こすことなくスムーズに回転するかを走行して点検します。

徐々に進行する変化には気付にくいので、整備工場定期点検を実施して、専門的な知識を有する整備士に確実にチェックしてもらいましょう。

トラブル例 ●排気ガス悪化による環境汚染 ●走行中のエンジンストップによる追突

※走行して点検しますので、交通状況に注意し、安全な場所で行いましょう。

### ハイブリッド車・EV車(電気自動車)の触れてはいけない部品例

ハイブリッド車やEV車(電気自動車)は高電圧ケーブル、高電圧バッテリーを搭載しているので不用意に触れると高電圧により、重度の火傷や感電の恐れがあります。一般ユーザーが不用意に触ってはいけない部品は、下の写真のようにオレンジ色になっていたり、注意書きシール等が貼られていますので、点検時は十分に注意しましょう。



# 日常点検チェックシート

## 自家用乗用車の日常点検チェック・シート

自家用乗用車の日常点検は1ヵ月に1回を目安に行ってください。それ以外でも、長距離運転の前や大雨の中での走行・雪道走行の後などには、しっかりとチェックしましょう。

自家用乗用車の日常点検は、この点検項目についてチェックしてください。

| 点検項目                     |                            | 年月日   |    |   |
|--------------------------|----------------------------|-------|----|---|
|                          |                            | 判定    | ○× |   |
| 1<br>エンジンルームを点検          | 1 ウインド・ウォッシュ液の量            | ○     | ×  |   |
|                          | 2 ブレーキ液の量                  | ○     | ×  |   |
|                          | 3 バッテリー液の量                 | ○     | ×  |   |
|                          | 4 冷却水の量                    | ○     | ×  |   |
|                          | 5 エンジン・オイルの量               | ○     | ×  |   |
| 2<br>クルマのまわりを点検          | 6 タイヤの空気圧(含むスペア・タイヤ)       | ○     | ×  |   |
|                          | 7 タイヤの亀裂、損傷および異状な摩耗        | 亀裂、損傷 | ○  | × |
|                          |                            | 異状摩耗  | ○  | × |
|                          | 8 タイヤの溝の深さ                 | ○     | ×  |   |
| 9 ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷 | 点灯(点滅)                     | ○     | ×  |   |
|                          | 汚れ、損傷                      | ○     | ×  |   |
| 3<br>運転席に座って点検           | 10 ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き | 踏みしろ  | ○  | × |
|                          |                            | 効き    | ○  | × |
|                          | 11 パーキング・ブレーキ・レバーの引きしろ     | ○     | ×  |   |
|                          | 12 ウインド・ウォッシュの噴射状態         | ○     | ×  |   |
|                          | 13 ワイパの拭き取りの状態             | ○     | ×  |   |
| 14 エンジンのかかり具合および異音       | かかり具合                      | ○     | ×  |   |
|                          | 異音                         | ○     | ×  |   |
| 15 エンジンの低速および加速の状態       | 低速                         | ○     | ×  |   |
|                          | 加速                         | ○     | ×  |   |
| 4<br>その他                 |                            | ○     | ×  |   |
|                          |                            | ○     | ×  |   |
|                          |                            | ○     | ×  |   |



自家用乗用車と自家用貨物自動車では点検項目等が異なります。それぞれのチェックシートのコピーをとって、実際に点検をしてみましょう。

## 自家用貨物自動車等の日常点検チェック・シート

自家用貨物自動車(ライトバン、トラックなど)は1日1回、運行前に日常点検を実施することになっています。一般的に乗用車と比べて走行距離が多くなることから、クルマの状態をしっかりと把握することが大切です。

自家用貨物自動車等の日常点検は、この点検項目についてチェックしてください。

| 点検箇所                   |  | 点検内容   |   | 年月日 |    |
|------------------------|--|--|---|-----|----|
|                        |  |  |   | 判定  | ○× |
| 1<br>ブレーキ              |  | ①ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。<br>○〔・ブレーキ・チャンパのロッドのストロークが適当であること〕<br>(※1)〔・ブレーキ・ドラムとライニングとのすき間が適当であること〕 | ○ | ×   |    |
|                        |  | ②ブレーキ液の量が適当であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | ○③空気圧力の上がり具合が不良でないこと。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | ○④ブレーキ・ペダルを踏み込んで放した場合にブレーキ・バルブからの排気音が正常であること。  | ○ | ×   |    |
| 2<br>タイヤ               |  | ⑤駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | ①タイヤの空気圧が適当であること。(含むスペア・タイヤ)   | ○ | ×   |    |
|                        |  | ②亀裂および損傷がないこと。   | ○ | ×   |    |
|                        |  | ③異状な摩耗がないこと。   | ○ | ×   |    |
| 3<br>バッテリー             |  | (※1) ④溝の深さが十分であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※2) ⑤ディスク・ホイールの取付状態が不良でないこと。  | ○ | ×   |    |
| 4<br>原動機               |  | (※1) ①液量が適当であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※1) ①冷却水の量が適当であること。   | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※1) ②ファン・ベルトの張り具合が適当であり、かつ、ファン・ベルトに損傷がないこと。   | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※1) ③エンジン・オイルの量が適当であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※1) ④原動機のかかり具合が不良でなく、かつ、異音がないこと。  | ○ | ×   |    |
| 5<br>灯火装置および方向指示器      |  | (※1) ⑤低速および加速の状態が適当であること。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | ①点灯または点滅具合が不良でなく、かつ、汚れおよび損傷がないこと。  | ○ | ×   |    |
| 6<br>ウインド・ウォッシュおよびワイパー |  | ①点灯または点滅具合が不良でなく、かつ、汚れおよび損傷がないこと。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | (※1) ①ウインド・ウォッシュの液量が適当であり、かつ、噴射状態が不良でないこと。   | ○ | ×   |    |
| 7<br>エア・タンク            |  | (※1) ②ワイパの払拭状態が不良でないこと。  | ○ | ×   |    |
|                        |  | ○①エア・タンクに凝水がないこと。  | ○ | ×   |    |
| 8<br>運行において異常が認められた箇所  |  | 当該箇所に異常がないこと。  | ○ | ×   |    |

注：(※1)印の点検は、当該自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りる。  
(※2)印の点検は、車輛総重量8トン以上または乗車定員30人以上の自動車に限る。  
○印の点検は、エア・ブレーキを用いた自動車についての点検を示す。